

クリスチャンが嫌いだ

シリーズ～さよならキリスト教～

2024/2/18

真面目
お堅い

奴隷貿易
無差別空襲
核爆弾の投下

優しい

クリスチャン

お高く
とまっ
ている

不寛容

偽善者

清く
正しい

「清く正しい」人たち

• 教会を拒む人たち

- 「クリスチャンは清く正しい人たちばかり。自分はそのようにはなれないので遠慮します。」

• なぜそのように思われるようになったのか？

- 聖書の教えが“戒律”のように受け取られている
- ミッションスクールでの厳しい道德教育

• かつて行われていた「禁酒運動」

- 明治時代に来日した宣教師たちは、日本人の飲酒のモラルの低さや、飲酒によって崩壊している家庭を多く見て、その改善が重要だと思った

禁酒運動

「北海道ではクラークが札幌農学校の一期生たちにキリスト教への入信をすすめて、76年11月に「イエスを信ずる者の契約」とともに「禁酒禁煙の誓約書」を交わした。一期生には、のちに北海禁酒会を設立する伊藤一隆もいた…このように、日本における禁酒運動はプロテスタント諸教派の宗教活動の一環として開始された。熱心な信徒たちは教義を守り、主に道徳的観念から禁酒をおこなったのである。ただし、禁酒は継続することが難しく、すぐに根付いたわけではない。しかし、禁酒運動の萌芽は、プロテスタント諸教派の伝道とともに各地へ広がっていたと考えられる。」(「近代日本における禁酒運動」後藤 新)

禁酒運動

「北海道ではクラーク
キリスト教への入信者
信ずる者の契約」を交
わした。一期生には
伊藤一隆もいた…
動はプロテスタント
開始された。熱心な
徳的観念から禁酒
禁酒は継続するこ
ではない。しかし、
ト諸教派の伝道と
られる。」(「近代

酒飲むな、
煙草吸うな
のヤソ教は
ああ面倒な
宗旨なりけり

の一期生たちに
11月に「イエスを
の誓約書」を交
酒会を設立する
における禁酒運
動の一環として
を守り、主に道
ある。ただし、
に根付いたわけ
は、プロテスタ
っていたと考え
運動」後藤 新)

飲酒について

- 聖書は飲酒を禁じていない

- パウロはむしろテモテにぶどう酒を勧めている

- 「これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、度々起こる病気のために、ぶどう酒を少し用いなさい。」テモテ 5:23

- 「大酒飲み」と言われたイエス様

- 「人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」マタイ 11:19

- 禁酒はあくまでも教派や教会の新しい伝統

- 18世紀のメソジスト運動を起源とする

真面目で「お堅い」人たち

- 品行方正だが「お高くとまっている」
 - 付き合いが悪く、自分たちだけ正しい世界に住んでいるよう
 - 世の中の人間と関わらない
- 「クリスチャンのくせに」と言われる
 - クリスチャンに対する＜間違った＞イメージによって裁かれる
- 余程の覚悟がないとクリスチャンにはなれないと思われている
 - まるで「世捨て人」のよう

他の信仰に対して「不寛容」だ！

- 自分の信仰だけが正しいとしている
 - 偶像礼拝を禁止し、他の宗教を否定する
- 信じることにこそ価値があると考え「日本教」からすると確かに「不寛容」である
 - 「日本教」は結局自分を信じる宗教である
- もし神がいるなら唯一でなければならない
 - 「無神論」も立派な信仰である
- 自分自身ではなく聖書を絶対的基準とするならば、不寛容であることを譲れない！
 - 聖書に従う割には悪い事をいっぱいしている→

悪い事をいっぱいしてきた

• 十字軍(11~14世紀)

- エルサレムをイスラム諸国から奪還する戦い

• 奴隷制

- 有史以来、奴隷制は行われてきた(戦争奴隷)
- 大航海時代以降、キリスト教国を中心に、アフリカ人を奴隷とすることが盛んに行われた

• 戦争

- 世界大戦はキリスト教国の間で起こった
- キリスト教国であるアメリカが原子爆弾を使った
- イスラム教の国々との戦争(現在進行中)

偽善的である

- 「愛の宗教」のくせに戦争が好き
 - 「あなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」と言われているはずなのに…
- 「二重生活」をしている
 - 教会の顔と家庭の顔が違う！
- 自己中心的である
 - 自分たちだけ天国に行って他の人は地獄に行く、と思っている
- イエス様が一番嫌われたタイプ
 - 「偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。」

脱クリスチャン

- 「何かをしない人」ではなく「何かをする人」に
 - 植え付けられたイメージを払拭することは大変だが、不可能ではない
- 「隠れクリシタン」を辞めましょう！
 - 「それでもクリスチャン！？」と言われましょう
- 大胆に罪を犯しましょう！
 - 「神は作り物の罪人を救われはしない。罪人でありなさい。大胆に罪を犯しなさい。しかし、もっと大胆にキリストを信じ、喜びなさい。」(ルター／「メランヒトンへの手紙」)

目指せ罪人のかしら！

「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。**私はその罪人のかしらです。**

(テモテ I 1:15／新改訳)